

ニホンイシガメ孵化幼体の産卵巣からの脱出

小賀野 大一

千葉県野生生物研究会

Escape record of hatchling of the Japanese pond turtle *Mauremys japonica* from spawning nest

By Daiichi OGANO

Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 290-0151, Japan

2019年10月10日午前7時45分、ニホンイシガメ(以下イシガメ)の域外保全を行っている野外産卵場で、孵化した幼体が産卵巣から脱出している場面(図1)を観察したので報告します。気付いた時点で、すでに孵化幼体6個体は穴の周辺で見つかり、その後に残っていた5個体が脱出したので、結果的に11個体はその産卵巣で生まれたことがわかりました。脱出した幼体の甲羅には土がたくさん付着し、地面と見分けが付きにくくなっていました(図1)。発見当日に、これら全ての幼体を洗浄し測定したところ、背甲長の平均±標準偏差 $33.0 \pm 1.07\text{mm}$ (範囲31.2-34.6)、腹甲長 $26.0 \pm 0.96\text{mm}$ (範囲23.8-27.2)、幅 $29.7 \pm 1.07\text{mm}$ (範囲27.1-31.1)、高さ $14.9 \pm 0.56\text{mm}$ (範囲13.4-15.6)で、体重は $6.8 \pm 0.44\text{g}$ (範囲5.8-7.3)でした。一方、全ての個体が脱出した後の産卵巣にできた穴のサイズは、長径32mm、短径24mm、深さ67mmでした。穴の形状は歪な楕円形で、その長径は孵化幼体の最大幅とほぼ一致していました。今回のように穴が崩れなかった場合は、イシガメの脱出口のサイズはこの程度の値になり、先に脱出した個体が開けた穴をうまく活用していることがわかりました。野外においては、セミ、クモ、カニ、トカゲ、ノネズミ、モグラなど様々な生物が空けた穴が地面に見られますが、イシガメの孵化後の産卵巣を発見する1つの目安にし、産卵場所を含めた生息地保全に役立ててもらえることを望みます。

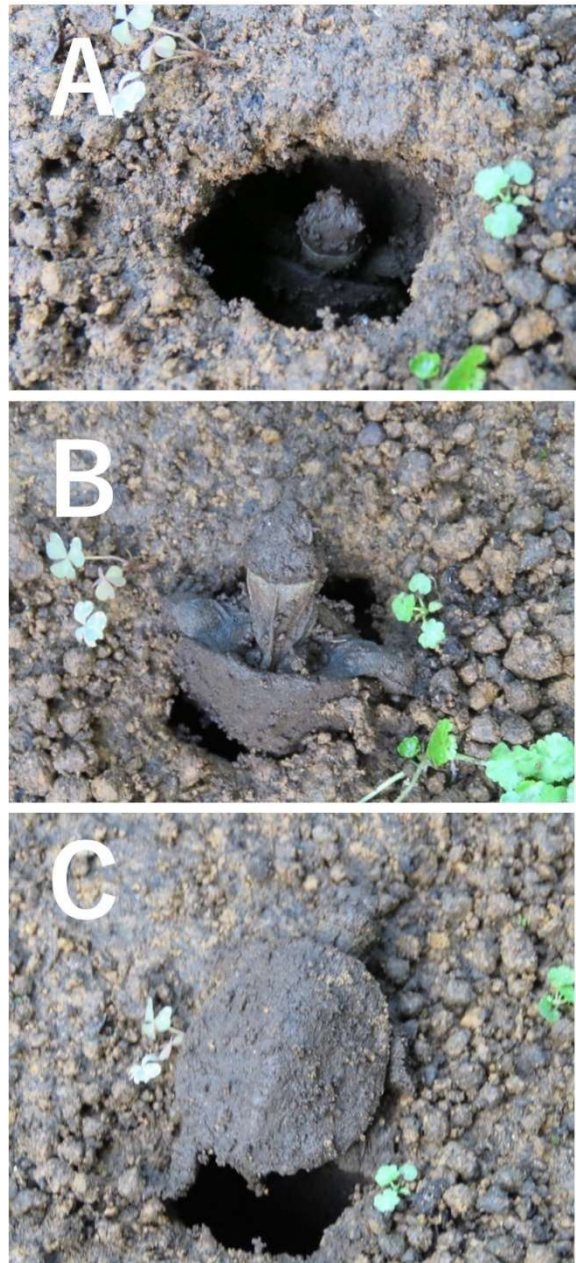


図1. ニホンイシガメ孵化幼体の脱出場面
(A→B→Cの順)